



学校だより

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

11月号
横浜市立大道小学校
平成29年10月30日

検索

校長 富岡 正雄

「ジャムの法則」

アメリカにあるコロンビア大学の「シーナ・アイエンガー」教授は、【選択】というテーマで実験をしました。概要は、次の通りです。

- ・スーパーマーケットにジャム試食ブースをつくる。
- ・6種類のジャムと24種類のジャムを並べて「試食率」と「試食者の購買率」を調査。
<結果> 6種類のジャムは、試食率は40%で、購買率は30%。
24種類のジャムは、試食率は60%で、購買率は3%。
- * 試食率に対する購買率は、6種類は全体の12%、24種類は全体の1.8%。
- * 種類を豊富に揃えた方が、消費者の購買意欲を刺激し、たくさん売れると考えていましたが、結果は、異なりました。

この実験から、私は、次のことに注目したいのです。

- ・ 選択をする場合、選択数は多過ぎない方が良い。候補となる数には適切数がある。
- ・ **選択をする行為は、同時に、選択をしやすくするように絞った行為が必要になる。**

「思考を整理し、絞ること」で「学びをデザインする」

子どもたちは、毎日の学習の中で、「ひと」「もの」「こと」との関わりを通して、いろいろなことを考えます。例えば、

- ・「○○について、どう考えますか？」
- ・「○○を◎◎するために、どうしたらいいでしょうか？」

という問いに対して、子どもたちは、

- ①本・インターネット・関わる人等から広く情報を収集する。
- ②収集した情報を、課題や問題の解決という視点で整理・分析し、自分の思考を形成する。
- ③目的や場面に応じて、班やグループ、クラスのみならず互いの思考を適切に伝え合う。
- ④多様な思考に接し、自分の思考を整理したり、絞ったりしながら、思考を振り返る。
- ⑤深まった思考をもとに、自分で判断・決定する。

この一連の学習過程の中で、重要なのが次の2点です。

- ②課題や問題の解決という視点で整理・分析すること
- ④自分の思考を整理したり、絞ったりしながら、思考を振り返ること

この2つのことが、しっかりとできれば、【自分なりの適切な選択】につながり、【判断・決定の質の向上】が図れると考えます。もちろん、取り組み方には、「学年や教科」「個人差」等があります。

この学習活動を【深い学び】がスタートする【学びの瞬間】と捉え、【学びのデザイン】を進めていきたいものです。

今後も、本校の教育活動に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<参考資料> ・「選択の科学」シーナ・アイエンガー著 櫻井祐子訳 他